

かもいろ

春号

Vol.13

特集 加茂の春ランチ

おなかも心も満たしてくれる
美味しいお昼ごはんが勢ぞろい



TAKE FREE (無料)



小京都
みいつけた

加茂紙（かもがみ）

和紙は、紙の原料である楮（こうぞ）を煮沸して、たたくて繊維をほぐし、水に溶かした後、「すげた」で漉き上げ、紙に仕上げます。加茂市の七谷地区は昔から紙漉き（かみすき）が盛んで、かつては和紙の里として有名でした。

七谷郷の和紙づくりの起源は中世にさかのぼり、新発田藩が加茂から多くの紙を買収した記録が残っています。18世紀に入ると加茂の紙商人と七谷の紙漉き人の結びつきが強くなり、加茂紙の名は県下に広がっていきまし

た。その後も地場産業として隆盛を続け、明治40年代には260軒の紙漉家（和紙の製造者）があり、新潟県和紙生産額の約38%を占めるほどで、ちり紙、障子紙、傘紙、温床紙、梨袋紙などが作られていました。平成5年には最後の1軒が廃業し、現在は生産されていませんが、その伝統技術を伝え残そうと、加茂市では再生事業に取り組んでいます。場所：旧協栄信用組合加茂

出張所（上町1-22）